東海地区現代俳句協会会報

第79号（増刊号）
令和5年10月20日
東海地区
現代俳句協会

そうだね

東海現俳協理事　神田ひろみ

加藤楸邨主宰「寒雷」の東海地区吟行会に、「陸」主宰の田川飛旅子先生が代わって見えたことがあった。到着の先生へ赤福とお薄を差し上げると「懐かしいねえ、僕のルーツは三重なんだよ」とおっしゃった。そういえば当時の三重県知事は田川姓であったような気がする。

句会が終わって誰かが「この人が将来寒雷を支える一人になると思うんですが」と田川先生の前へ私を突き出した。先生は私をじっと見詰め、それから眼差しを宙へ上げしばらく沈黙のまま、もう質問を忘れられたかと思うほど経ってから、ゆっくりと私に視線を戻し「そうだね」と言われた。

十数年後、私は楸邨論を書く必要に迫られていた。その過程で『加藤楸邨ー新訂俳句シリーズ人と作品ー』（田川飛旅子著、桜楓社）は頼りになる著書であった。本著の「まえがき」に、楸邨の魅力は作品とともに「強烈な人格そのものにもある」と田川先生は記している。感傷的でない、行き届いた論が私には有難かった。

竜胆は若き日のわが挫折の色　飛旅子

遠足の列大丸の中とほる　同
納涼映画に頭うつして席を立つ　同
非常口に緑の男いつも逃げ　同

その息いでゆけば、かれ土にかへる。その日かれがもろもろの企ては亡びん。（詩編一四六）

雁仰ぐ体の中に水の音　同

田川先生は東海地区現代俳句協会会長であった、カトリック信者の小川双々子先生と違って日本メソジスト派の熱心なクリスチャンであった。そして「寒雷」の会ではいつも「私が寒雷創刊号の巻頭をとった田川でございます。（**胸の湿布替へゐるひまも聴く野分**）その句を私はこの手で書いたのです」と、高々と右手を挙げて見せた。そんなことをどうして何度も言わねばならないのか、というのが大方の反応であったが、田川先生は事実が何より大切な理系の俳人であったのだ。

「寒雷」は通巻九百号で終刊し後継誌「暖響」は本年八月に創刊五周年を迎えた。楸邨の謦咳に接した一人として、「暖響」に在る私にとって遠い日の田川先生の「そうだね」は重しでありつつも、信頼しているよという温かい一言であった。だから句会には出るべし、吟行には行くべし、そこにあなたを励ます大事な言葉が待っている。そう思うのだ。

青年部の活動

有松吟行会　六月二十四日

絞り女の手もと口もと夏旺ん　太田風子
似合ふまで被り直して夏帽子　石川美智子
暖簾名の染め残したる白涼し　有本仁政
大甕の底まで乾く旱梅雨　寺尾当卯
扇子ひらく手廻し蜘蛛といふ絞り　今井真子
電柱にもたれる百合に口説かれる　岡田真由美
弥次喜多の歩きし街やかたつむり　中野ひとし
街道の端に祇園寺花擬宝珠　成木幸彦
梅雨曇り馬つなぎ環の小さきかな　江坂衣代
隔世の江戸有松や夏暖簾　北野武司
南風や皺が教える絞り技　都築幸子
水打って風の抜けゆく虫籠窓　ひらの浪子
絞り柄日傘買う女藤の花　山田豊美
藍日傘四〇〇年の愛を染め　佐藤美千子
梅雨めくや絞りの暖簾揺れる店　緩詰里美
街廻る山車の明かりに虫の声　加藤千津子
山車会館のあないびと夏羽織り　河合惠子
夏の川のれん軒並み絞りあり　早川正博
白南風のそそと流るる虫籠窓　菊山千月
梅雨晴れの小路の深く藍の街　松永みよこ
街道はみづのにほひや藍浴衣　福林弘子

蒼年部（そうねんぶ）『つばめ句会』の活動

青年部を卒業した50～70歳で、まだ経験の浅い会員の勉強・交流を目的としていますが、青年部も含め広く参加を募っています。初心者や会員外もぜひ御連絡をください。

偶数月の第3（第2の場合もあり）土曜の午後に名古屋で開催、名前は『つばめ句会』です。これまでに3回開催して、18～70歳の12～14名が参加、フラットに議論できる句会となりました。句会終了後の二次会・三次会も熱く、俳句漬けの一日でした。

●第1回～3回つばめ句会の高得点句

拝啓のあとに桜を貼ってみる　岡田真由美
白子干六人兄弟ひとり欠け　村山恭子
六月の切手は約束の香り　佐々木歩
満天の声を引きよせソロキャンプ　ひらの浪子
矢車菊ツタンカーメン王の息　高橋　明
八月のポスト静かに傾きぬ　菊山千月

●第4回つばめ句会
10月14日（土）に終了

●第5回つばめ句会
12月16日（土）13～16時半
三句（当季雑詠）短冊に書いて持参
場所未定／会費無料

●第6回つばめ句会
2月17日（土）13～16時半
場所未定／会費無料

●連絡先　有本仁政　090-4850-0264
hitomasa@nyd.biglobe.ne.jp

岡崎藤川宿吟行句会へのお誘い

おいでん　藤川宿

ここ藤川宿は五万石、岡崎藩の東玄関口であるが、品川宿から数えて三十七番目の宿場として、整備されたのは慶長六年（一六〇一）である。約四二〇年経た今も、往時の面影を残す家並みが約一キロの街道筋にあり、高札や古図書等の当時を知るものが、藤川宿資料館（脇本陣跡）に展示・保存されている。

宿場の規模は小さく本陣、脇本陣、問屋場が各一か所、旅籠屋三十六軒、人口は約一二〇〇人余りと伝えられている。

芭蕉がここに立寄った際に詠んだ

ここも三河むらさき麦のかきつばた

の句碑は街道筋にある十王堂の境内にある。芭蕉が詠んだ紫麦はその後廃れてしまったが、平成六年に復活栽培されて毎年五月中～下旬に美しいむらさき色の麦を見ることが出来る。

ちなみに吟行句会の会場である岡崎市東部地域交流センター・むらさきかんはこの麦の色のむらさきから公募によって名付けられたものである。

岡崎市在住　永井清成　記

※吟行句会詳細は会報八十号に再掲載しますが、簡単な要項を以下に記した。

日時　令和六年五月十九日（日）
　九時半～十六時（雨天決行）
場所　岡崎市藤川町田中十九番
　名鉄本線藤川駅北すぐ
　むらさきかん
℡　0564-48-3066
句会　投句締切十二時（時間厳守）

第十五回鈴木しづ子顕彰会　第五回小中高いのちの俳句大会

※九月九日午前午後共に開催された二つの大会には、永井会長始め役員各位が審査員として参加し実施された。

今大会は二千四百九十二句の応募があり、早くも大会の認知度が高まったものと考えられる。紙面の制約があるので、ごく一部抜粋し紹介。

◆いのちの俳句大賞

玉虫の背中のかけら夕日散る
羽黒小四年　梶野いち華

無造作に閉まる病室ヒヤシンス
済美平成中三年　尾部凛々子

表裏なき座布団や終戦日
名古屋高校二年　服部　亮汰

◆犬山市長賞

せんせいのせなかにひっつき虫なげた
養正小六年　大野　一椛

恋してる身体を冷やすレモネード
南部中二年　吉野　生栞

空席にコーヒー一つヒヤシンス
済美平成中一年　井口　慶人

第六回 全国大学生俳句選手権大会

予選通過の六大学の作品が発表され、俳句に合わせた寸劇が上演されるなか審査がなされた。「アルバイト」を兼題に競われた受賞作品である。

◆優勝

くたびれしバイト着たたむ夏の果
明治大学

◆準優勝

テラス席の2人へ運ぶソーダ水
名古屋工業大学

◆入賞

レジを打つ一本の指桜咲く
中京大学

きりぎりすシフトの空きを住処とし
中央大学

もうバイトやめよっかなって冷奴
徳島文理大学

毛虫焼く銃も戦もない午後に
愛知大学

神野紗希氏によるトークライブ紹介

俳句は人生の生き辛さを、心の発露として作られるもの、例として自身が翻訳したウクライナ人の俳句や震災俳句を紹介。境涯を振り切って希望を詠う、鈴木しづ子も取上げた。そして人生の時々の真摯さを、言葉として輝かせる「命を言祝ぐ詩が俳句である！」と結ばれた。

この闇に一つの窓の灯りが奇跡
ブラジスラワ・シーモノワ

泥かぶるたびに角組み光る蘆
高野ムツオ

娼婦またよきかな熟れたる柿食うぶ
鈴木しづ子

第6回 ジャズ句会LIVE in 名古屋

好評イベント、今年も開催 !!

日時　２０２３年11月11日（土）
　12時受付、12時半～15時半終了
場所　monaPETRO　℡052-684-9860
　〒460-0008　名古屋市中区栄
　1-2-49テラッセ納屋橋１Ｆ
　地下鉄伏見駅６番出口西へ６分
出演　俳人＋ジャズミュージシャン
会費　千円／定員　40名（予約推奨）
内容　貴方の俳句作品をテーマにミュージシャンが、即興で演奏します
申込　青年部　福林弘子
　℡090-4799-4247
　tokai.genhai.seinenbu@gmail.com

令和五年度総会 & 六年新年俳句大会

◇令和六年二月十八日（日）
◇ウインクあいち
◇午後一時～四時半
◇事前投句二句無料（会員のみ）
◇投句用紙&総会案内は後日送付予定
※問い合わせ先
〒516-0035 伊勢市勢田町８５１－６
事務局　平賀節代　0596-25-6849
メール　setu1110@hi3/enjoi/ne.jp

東海地区現代俳句協会会報　第七十九号
令和五年十月二十日発行
発行者　永井江美子
編　集　前野　砥水
　名古屋市中村区猪之越町三-一-五
印　刷　ヨサ美印刷
事務局　平賀　節代　方
　三重県伊勢市勢田町八五一-六